

Title	大工頭中井家文書(八)
Sub Title	On the documents concerning the Nakai (中井) Family (VIII)
Author	中井, 信彦(Nakai, Nobuhiko) 高橋, 正彦(Takahashi, Masahiko)
Publisher	三田史学会
Publication year	1968
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.41, No.2 (1968. 9) ,p.147(319)- 156(328)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	史料紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19680900-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

史料紹介

大工頭中井家文書 (八)

中井 信彦
高橋 正彦

〔一八二〕 村田権右・山代宮内連名書状 (折紙)

追而申上候、此状片桐市正方へ被遣 可被下候、以上

急度申入候、禁中様御普請 (徳川義直) 右兵衛様為御冥賀ニ候間可

被成旨ニ候、院御所有之築地成とも又者何にても被成能

所不及申候へ共御渡之様ニとの御事候

一秀頼様茂為御冥加可被成との御事ニ候而片桐市正方へ

可被仰渡候事

一公家諸大夫衆之帳御兩人へ可相渡旨 御錠候事

一拾万右の上築地ニ候、地形もハ知行高多可有御座候間、

築地も内之地形三間通と、そのの道、築地衆へ可相渡旨

候事

一禁中御材木被出候九州衆者右之御善請渡間敷旨候事

「中井家文書」

一諸大夫衆之帳知行高又者名之書落も少々可有御座候間
可然様ニ奉頼候事

一知行高之内御役御赦免之衆者其通ニ可被成候事

一御普請割符之違若御座候者惣下奉行衆へ被仰付可被成

御極候、恐惶謹言

山代宮内

六月十六日

村田権右

板倉伊賀守様

米津清右様

中井大和様

人々御中

〔一八三〕 板倉勝重書状 (折紙)

追而申候、両伝奏への書状も此便宜ニ越申候間可有其御心得

候

禁裏様御舞台御楽屋之儀無御断様ニ信州へ申渡候、材木

大方相調候間頓而出来可申候者將亦広橋中納言殿へ被

(三一九) 一四七

仰出御草子書申者之居申所二間半ニ五間程并炭薪御台所ニ置候へ共火用心悪敷候間三間ニ五間にも六間ニも御蔵壹ツ以上二ツ申付候様ニと被仰下候間幸兩伝 奏其元へ御下向事候間於彼地被仰上候様ニ兩伝奏へ中納言殿も可被仰越之由返礼申候、我等為自分難斗御座候間其御心得候而被得 上意可然存候猶追而可申入候間不能詳候、恐々謹言

三月十日

板伊賀
勝重(花押)

中大和殿
人々御中

〔一八四〕 板倉勝重書状(折紙)

追而申候、新左勘定も引こみ候ていたされ候由候、こもとも 御上洛付御能御座候間御舞台其外大工衆入候儀五左衛門・源右衛門走廻被申候へ共其方爰元にて被申付候やうにハ無之候間、我等一入其方帰京待入候、宿所無事候、子息も我等かたへ被見舞一段息災候、又老父も一たん達者成よし五左衛門被申候間是又可御心

易候、以上

其以来者音信も無之候、其許へハ何頃下着候哉承度候、御所様被成御上洛御氣嫌能被成御座候之条不可氣遣候、次其許御普請者何時分可出来候哉、爰元 禁中様御築地之儀付、今日晦日各被仰付候条頓而可為出来候 御殿以下者其方不被上候てハ諸事可難成と存事候間其地御普請早々出来候様ニ御奉行衆共被相談急待入候、猶追々可申候間不委候、謹言

七月晦日

板伊賀守
勝重(花押)

中井大和守殿

〔一八五〕 伝奏 三条西実條・広橋兼勝

書状案(折紙)

内々外様申沙汰御能御座候、就其舞台之事、中井大和守へ可被仰渡候、恐々謹言

二月八日

(三条西)
実條
(広橋)
兼勝

板倉伊賀守殿

〔一八六〕 板倉勝重書狀（折紙）

猶々此詫之文共御見わけ候て御届頼入候、以上

先日者早々御暇乞申候、仍 禁中様新御殿被成御移候付
諸公家衆御能御申沙汰之由候、然者とりなき之舞台之事
傳 奏より被仰候、我等為私難斗候間而伝 奏御狀其地
へ指越申候、被得 上意其上御左右次第二候、恐々謹言

二月十一日

板伊賀守
勝重（花押）

中井大和殿

御宿所

〔一八七〕 板倉勝重書狀（折紙）

猶々爰許御用之事候者可承候、以上

名古屋迄御着候由具示預本望存候、駿府御作事被成御急
候ニ付大工参候由承候間伝馬之 御朱印信州理次第認渡
申候、随而禁中様御能御申沙汰ニ付而舞台之事切々被
仰出候、先度駿府まで伝奏衆之御狀相副越申候、被得

上意其趣意可承候、於爰許信州へ可申渡候、將亦我等氣
相先日之時分も暖氣ニ成候故歟少能候間可御心安候、
猶期其節候、恐々謹言

二月十三日

板伊賀守
勝重（花押）

中大和殿

御旅所

〔一八八〕 板倉勝重書狀

追而紀伊国之者と忠兵衛と材木之出入候事先日如申候一方曲
事ニ可罷成候間大仏之事候条市正殿へも誰咄人檢使をも御越候
様ニ可被仰越候米清右も近所ニ御入候而誰檢使をも被出可然候
日限を相定可申理候か様之儀者大成事候間何も寄合候て見届其
上越度之方を曲事ニ仕候て可然存候一日二日遅候て不苦事候間
日限承候者我等方も市正殿へも米清右へも可申越候以上
如仰今朝者御殿共之出入又ハ御普請之しきり共相究候て
於拙者大慶此事候、然者火之用心其外金物以下之用心ニ
番之事承候尤之儀共候我等も堅可申付候、其外御殿請取
御衆之方へも急可申遣候何も被入御念満足申候、以面可

申入候、恐々謹言

八月五日

勝重 (花押)

(ウツ書)

板伊賀守

中井大和守殿

勝重

御報

〔一八九〕 板倉勝重書状 (折紙)

猶々目出度万事相調申候由於拙者大慶不過之候、何事も、能様ニ御肝煎尤存候、以上

明日上棟之儀先以目出度存候、万事御殿、御仕合共御申付候由尤存候、我等も可罷出と存候而此中養生をも致候而有之事候、気相も一段能候間可御心安候、早可罷出候、将亦何も御普請奉行衆へゑほしかみ下候て御出候而可然由是亦只今申渡候、何も被出可然何事候、明日之儀八万事能様ニ御申付尤候、能々弥五右衛門可申候、恐々謹言

十一月十八日

板伊賀守
勝重 (花押)

中井大和殿

御報

〔一九〇〕 本多正信書状 (折紙)

尚以爰元御様躰庄三、又四方可被申懸候条不具候、以上其地御普請出来仕候趣被仰越候通後藤庄三茶屋又四宗哲相談披露申候処ニ早々出来仕由被 思召一段之御機嫌共ニ御座候、扱又京都へ之儀も右之衆中方可被仰入候間可被為得其意候、恐々謹言

霜月十三日
本多佐渡守
正信 (花押)

中井大和守さま
御報

〔一九一〕 本多正信書状 (折紙)

尚以為御料理之菱喰壹貳尺進覽餘之御事ニ候、以上始禁中様大仏方々御普請御請取被成候儀委示預候趣一々將軍様へ申上候処ニ大惣なる儀貴所才覚を以道行はやく御入候事被為入驚御ほめ候儀不大形御事共ニ候、此方之様躰御心安可被思召候、然処ニ駿府にて御煩氣之由承候、真にて候哉、御養生可被成候、将又彼是御取紛半寄

思食南都大樽式つ被懸御意候、いつもく之御心付書中
ニ難申謝候、委細期後音之時候条不具候、恐々謹言

十月廿日

本多佐渡守

正信(花押)

中井大和守殿

御報

〔一九二〕 安藤重信書状(折紙)

尚以切々御状忝存候、以上

貴札忝令拝見候、如御意之其以来ハ久々書状以不申通無
音所存之外ニ御座候、禁中様御普請大仏御普請方々御苦
勞共奉察候、大仏御普請も霜月十日棟御上之由禁裏様御
作事も女院御所大かた御家共出来申、本内裏様御普請廻
之石垣築地頓而出来仕候由可得其意候、御紙面上候趣可
達 上聞候、大御所様御機嫌能御鷹被遣候、去十六日至
江戸被成御着座候、公方様不成大形御機嫌被思召候、殊
ニ大柿五百箱二ツニ御入御進上被成候、一段御機嫌共ニ
御座候、随而拙者へも諸白大柳二ツ被懸御意候、遠路御
心付之段別而過分至極ニ奉存候、此表御用等候者御心置

なく可被仰越候、疎意存間敷候、猶期後音之時候条不能
詳候、恐惶謹言

十月十九日

安藤对馬守

重信(花押)

中大和守様

貴報

〔一九三〕 岡田将監書状

猶々喜之助殿送候て拙者も信州迄罷越築地之様子御尋候間右之
通申入候以上

御状忝存候此中御在所ニ候て昨日御帰京之由拙者も一昨
夜爰元へ参候内々従是可申入と存候へ共少暖氣を仕罷有
ニ付未伊賀殿などへも不罷出候間其元御見廻も不申入候
然ハ公家衆御築地之儀被仰付候間 公方様伏見ニ御座被
成候趣入札望次第ニ仕候様ニと申候へは方々入札仕
ニ付其様子を以テ先日喜之助殿爰元ニ御心入候内ニ相究
書付をも取かわし銀子をも相渡し申儀ニ候築地之様子ハ
院御所様御築地之ことクニ申定候然共院御所様御築地ニ
ハいだしけたとやらん申候哉御座候それハつねの築地ニ

候何方ニも無御座候間定而御位ニより候と存出しけたなしニ相究申候其外之儀者院様之御築地のことくと申定候院様御築地之かつかうよく御座候哉御指南頼入申候、万々面上之趣可得御意候、恐惶謹言

霜月十日

岡田将監

□□ (花押)

中井大和様

御報

〔一九四〕 酒井忠世書状 (折紙)

猶々御書面之通申上候処一段御機嫌被 思召候以上

御懇書殊為歳暮之御祝義小袖志重内綾被懸御意候、誠遠路之処御懇意之段令祝着候、将亦尾州名子屋御作事致出来 禁中就御作事ニ京都ニ御上候由彼是御苦勞御機遣察入候、御書面之通具ニ申上候、猶此表相替儀無御座候、相応之用等候者可被仰越候疎意存間敷候、恐惶謹言

極月卅日

酒井雅楽頭

忠世 (花押)

中井大和様

御報

〔一九五〕 大久保忠隣書状 (折紙)

為歳暮之御祝儀御小袖一重綾薄板被懸御意目出忝存候、然者名古屋御普請御仕廻其上去十二日より 禁中御普請旁御苦勞共察入候、御書中之通以御次而可達 上聞候、猶期後音候、恐々謹言

極月廿九日

大相模守

忠隣 (花押)

中井大和守殿

御返報

〔一九六〕 本多正信書状 (折紙)

以上

大御所様為御鷹野と関東へ御下向被成御鷹被遣 御機嫌能 還御被成候儀目出度被思召之由何方も御同前之御事候、然者那古屋にて長々御苦勞被成、又 禁中為御作事之ニ御上洛之由乍御苦勞目出度御事共、書中ニ不得申候、^(坂)坂倉伊賀守殿と諸事被相談被仰付候由、示預候趣達上聞

候処一段之御仕合共ニ御座候、随而為御祝儀御小袖壹重之内綾鍊嶋被懸御意候、寄思食被為入御念候儀書中ニ難申謝候、委曲期明春之時候、恐惶謹言

十二月晦日

本多佐渡守

正信 (花押)

中井大和守様

御報

〔一九七〕 安藤重信書状 (折紙)

猶以御屏風御進上被成、本佐州・大相州 御前ニ御座候、不成大形御機嫌ニ御座候而御心安可被思召候、以上

貴札忝拜見仕候、如御意之 大御所様御機嫌よく方々御鷹被遣被為成 還御両 御所様御機嫌残所無御座候、那古屋御普請出来仕、禁中様御作事初ニ仕而御在京之由得其意存候、御紙面之通可令達 上聞候、方々御苦勞共ニ御座候、殊ニ為歳暮之御祝義御小袖一重被懸御意候、誠以幾久目出度奉存候、猶期永日候条不能詳候、恐惶謹言

極月廿九日

安藤對馬守

重信 (花押)

中井大和守様

貴報

〔一九八〕 青山成重書状 (折紙)

猶々、公方様へ御屏風御上候、各申談披露申候處御機嫌被食候、以上

御書中之通忝令拜見候、然者 大御所様為御鷹野と爰許へ被成御下向 御機嫌残所無御座被為成 還御公方様御満足不大形下々迄珍重不過之候、將亦 禁中様御作事始去十一日ニ御座候由被仰越候、被達 上聞候處是又御機嫌被思食候、貴殿御事名古屋ニ永御逗留之由御太儀共ニ候、併御地御作事も出来申由具申上候、随而拙者方へ小袖一重之内綾壹つ熨斗目壹つ送被下候、誠遠路思召寄忝候、此表御用之儀候者、可被仰越候、少も如在存間敷候、恐惶謹言

極月晦日

青山書助

成重 (花押)

中井大和守様

御報

〔一九九〕 土井利勝書状 (折紙)

猶以名護屋御勘定于今被仰付候由、御苦勞察入候、以上御札趣令拜見候、如仰今度 大御所様御機嫌能被成還御目出度存候、いか殿御事名護屋より其元へ御越候て去十一日ニ 禁中御作事鋸始之儀從往古如有来□板伊賀殿奉ニ而御書付出申付而如其被遊来年々御普請可被仰付御用意無御油断之由御替□通得其意尤存候、将亦 公方様小屏風一双御上候処致披露禁中御鋸始之儀付而使者を被差下候旨申上候処、公方様御機嫌不成大形御座候、殊私方へも御小袖壹重内綾染物被懸御意誠遠路御懇情段別忝存候委細ハ御使迄申入候間、不能詳候、恐惶謹言

極月晦日

土井大欣助

利勝 (花押)

中井大和守様

貴報

〔二〇〇〕 本多正純書状 (折紙)

猶々其元永々御苦勞共ニ候、此地何にても御用にて者

可蒙仰候、不可取疎意候、以上

預御札候、仍而 禁中御作事致出来近日御移徒之由存其旨候、然者此表相替儀無之候、何にても御用に候者可蒙仰候、不可存疎意候、将亦為御音信はた小袖式つ被懸御意候、御懇志之通忝存候、猶期来音節不能具候、恐々謹言

十一月廿六日

本多上野介

正純 (花押)

中井大和守殿

御返報

〔二〇一〕 板倉勝重書状 (折紙)

猶々頓而参候而可申承候、以上

昨日者早々申承候、禁中御普請殘無所出来申候由先以目出度存候、随而内膳所へ大脇指御越候、溝半左殿御下候間誂下可申候、慥可相届候間可御心易候、我等ハ不存候へ共一段と見事之脇指にて候、尚以面可申達候条不能具候、恐惶謹言

七月七日

板伊賀守
勝重 (花押)

中大和殿

御報

〔二〇二〕 大久保長安書狀 (折紙)

猶々、其方御取成候儀上野殿不残被仰上候、於様子ハ可御心安候うしること残所も無之候、自然御用等候ハ、我等所方可申入候、御氣遣有間敷候、以上

急度申入候仍先日ハ駿州ニて其方御辛勞故御普請早出来候而満足申候 御前ニても其通申上候ハ、殊外御機嫌能候其上関東之番匠衆ニ被成 御意候者大成事を仕候間罷上大仏取立之様子見候て若者共ハ大和弟子ニ成田舎ニて御普請をも仕候様ニと不大形御詫共ニ候間先以外聞可為御大慶候我等式迄も満足申候、禁中御作事之義も木取下其方次第と被仰出候 將軍様へも何事も御普請方之儀大和次第御尤之由被仰出候外聞と申節も御感之事候 此表相替儀も無之候可御心安候 大御所様霜月十九日江戸

〔中井家文書〕

へ被為 成廿八日ニ江戸被成御意駿州へ被成還御候、路次中も 御機嫌能候由小田原方申来候我等も致御件駿州へ可参処從 將軍様関東近年御勘定帳見てらちを立指引可申付旨被仰出候間逗留申事候、其表ニ左馬助居申事候間万事頼入候、かねて如申候禁中御作事も候ハ、可然様御指引候て可給候なこや御普請之儀も任申候、恐々謹言

極月六日

大石見守
長安 (花押)

中大和様

まいる

〔二〇三〕 板倉勝重書狀

猶々、以参談合可申候へ共内ニ御入候も不存候間以書狀申候、此御使之御中間も明後日可罷下由申候間御隙にて候ハ、明日其元へ可参候、此方へ成共御出待申候、談合申御越認可申候、此方へ参候文式ツハ御披見候ハ、此方へ可有御返候、又禁中御普請も千石夫も今

(三二七) 一五五

日迄にて明日ハ早々可申と申事候、以上

自駿府如此之御状昨日次飛脚にて参候、又今日同文章にて御中間持参申候間持せ進候、可有御披見候、本上州方貴殿へ参候書状も進し可有御請取候、又成隼人殿方此方へ被越候書状ニも貴殿駿府へ御下候て可然由被申越候、又庄三内膳所方も其分ニ申越候、何様以面談合可申候、恐々謹言

七月十九日

勝重 (花押)

(ウツ書)

「」

中大和殿

板伊賀

まいる

〔二〇四〕 板倉勝重書状 (折紙)

以上

中信濃被上候刻預御状具披見申候

一女御様御作事之儀何も奉行衆無油断信濃相談にて材木調之様子被申付候事

一信濃不上以前ニ唯今迄国母様御座所端々被損之所御座

候間御作事をも被成度之由古山駿河御使にて御座候、併院御所御殿へも於御移ハ只今御作事不入事と被仰出候間頓而大和上次第二 院御所不入御殿をも御こほし被成御座所をハ何様にも御普請可仕と申上候事

一 国母様御座所御殿ニも御すまいなと御好御座候間喜之助殿右衛門殿へも御作事奉行衆方書状参候間我等方も御年寄衆へ申候間早々御上可然候、何も信濃を始大工衆寄合候てもはかゆき不申候間其許御年寄衆へ被得御意御上待入候、猶以面可申承候、恐々謹言

八月廿七日

板伊賀守
勝重 (花押)

中大和殿

参